

熊本市豪雨水害

一日も早い住宅再建と生活再建を！

「支援制度の紹介」と「被災者の要望など聞き取り調査」を実施

日本共産党市議団と党災害対策本部は、豪雨により大きな水害が発生した龍田地域などを中心に、被災者への要望の聞き取り調査を行いました。また、支援制度をまとめた冊子も作成し、被災者に手渡ししながら再建に向けた制度の活用を呼びかけました。



「一カ所で手続きできる窓口を」「冷蔵庫、洗濯機などが必要」など切実な声

- 支援制度の手続きに2日間かかった。龍田出張所で対応できないものもあり、車も流されたなかで区役所まで行くのは大変。一カ所で手続きができる窓口をつくってほしい。
- 住宅の建て替えや修繕をするにも資金が足りない。前の家のローンと合わせ2重ローンの苦しみが続く。
- 水害に脅えながらこの地域で暮らすのは不安。安全な場所に移り住めるよう支援してほしい。
- 全ての家財道具が流された。冷蔵庫、洗濯機、風呂のための給水器など、せめて生活に欠かせない家電製品が必要だが、住宅修繕で手いっぱい。
- 市営住宅が市から提供され感謝しているが、自宅からも遠く離れ、通勤・通学・通園などを考えると移れない。など、切実な悩みや要望が多数寄せられました。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市中央区手取本町1-1 議会棟 ホーム：<http://www.jcp-kumamoto.com/>

NO. 811

2012年8月5日

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

被災者からの聞き取りをもとに熊本市へ要望

被災者からの聞き取りをもとに、7月31日、幸山市長に対して、被災者の実態に即した支援策などを求めた要望書を提出しました。西島副市長が対応し、「被災者の声を聞きながら復旧に全力を挙げたい」と述べました。



要望書を手渡す山部洋史党地区災害対策本部長と市議団

不十分な支援制度～被災者の実態に即した市独自の支援策を！

聞き取りを行い改めて感じたことは、「被災者の要望や悩みに対して、国などが定めた支援制度が不十分で実態に追い付いていない」ということです。市独自の支援制度の創設も含め、被災者の目線での支援が求められます。

【控室から】
災害への対応は「住民が主人公」で

上野 みえこ

7月の豪雨災害から3週間がたちました。連日の猛暑の中で復旧・復興活動が取り組まれています。市内でも被害の大きかった龍田地域の方々は、暑い中で長期間にわたる避難生活を送る方もたくさんいらして、1日も早い復旧と生活支援、精神的なケアなども含めた、将来の見通しが持てる多面的な支援が必要です。昨年の東日本大震災の折、ボランティアに伺った宮城県塩釜市の方から、早速、お見舞いと激励の電話がありました。日本共産党は今、被害地域に入り、聞き取り調査を行い、住民の要望を聞いて、その声に応える活動に取り組んでいます。7月31日には、寄せられた声をもとに、日本共産党熊本地区委員会と市議団で、市長に「豪雨水害に関する要望書」も提出しました。改めて東日本大震災の経験にも学び、「住民が主人公」の立場で災害への対応を進めていくべきと考えます。

また、今回の災害では、白川の堤防の決壊が大きな被害を生んだことから堤防の未整備問題や、住民への情報提供も含む危機管理体制の問題が改めて指摘されています。甚大な被害のおもとにある、このような問題の解決には、熊本市のまちづくりのあり方も問われています。時代にそぐわない大型の再開発ビル建設より、「人命優先の災害に強い街づくり」「こそ求められているのではないのでしょうか。この点でも、住民の視点が重要です。

＜宇土市「特定健診無料化」視察報告＞ 「効果てきめん」無料化で受診率向上

日本共産党市議団は、7月25日、熊本民主商工会、くわみず病院、平和クリニック、くまもと・西南部健康友の会などの皆さんと宇土市への行政視察を行いました。今回は、12年度から始まった県下で初めての「特定健診無料化」など健康づくりについての宇土市の取り組みを特集しました。

受診率 40%を目標に無料化

宇土市では、12年度330万円の予算で特定健診無料化が実現しました。県下熊本市に次いでワースト2位の特定健診(対象40~74歳)の40%への受診率向上で、疾病の早期発見・早期治療による重症化予防をめざしています。

保健センターを中心にした取り組みで、受診者の3割が初めての受診者など効果はてきめんです。

宇土市の特定健診自己負担費

集団健診：1300円⇒無料
個別健診：2000円⇒無料

宇土市独自の健診項目

がん検診：腹部超音波、前立腺がん検診(男性)
その他：骨粗鬆症検診(女性)
*人間ドック助成(2万円、女性は3万円：40~65歳まで5歳毎の節目)

がん検診と併せワンストップで出張「複合健診」

宇土市が素晴らしいのは、とにかくきめ細やかな取り組みが行われていることです。40歳以上の市民全体に「健診申込み票」を返信用封筒付きで送付し、受診希望調査を実施。集団健診を平日だけでなく、土日曜日も実施。市民の住まいに近い地区体育館、漁協、老人福祉センター等でがん検診と併せた人間ドック並みの「複合健診」や結果説明会を実施。

未受診者にも、日中や夜間に、非常勤の事務職員が電話かけや、通知書を送付し、健康を守る婦人の会も受診率向上に力を発揮しています。

熊本市「特定健診受診率」は県下ワースト3位 再び「特定健診無料化」実現を!

熊本市は、基本健診の時代は、健診費用はすべて無料でした。特定健診のスタートと同時に、一挙に1000円(非課税世帯・生活保護世帯は無料)に有料化されました。受診率は2010年度実績で、県下市町村では、荒尾市、水俣市に次いで、ワースト3位27%に止まっています。

政令市の特定健診無料化は、仙台市(受診率45.8%)、さいたま市(33%)、名古屋市(26.3%)、大阪市(18.2%)、北九州市(28.6%)の5市です。高齢者のみ無料は5市、ワンコイン500円は4市です。

国民健康保険料負担軽減に「受診率アップ」は重要

熊本市の国民健康保険料は、去年の保険料の引き上げで、ますます重い負担となっており、払える保険料への引き下げは急務です。

そのためにも、疾病の「早期発見・早期治療」による重症化の防止は医療費削減効果もあり、重要です。自己責任でなく、再び「健診無料化」実現が求められています。

75歳～後期高齢者医療健診無料化を!

九州では熊本(800円)福岡(500円)を除き無料

宇土市では、74歳までは無料化したものの、75歳以上の健診費用は800円と年齢差別が発生。

日本共産党の福田議員は、75歳以上も無料にするよう議会でも要望しています。

後期高齢者広域連合議会では、益田牧子議員は、荒木俊彦大津町議と共に、九州各県では、熊本と福岡県を除き、無料化していることから、繰り返し健診無料化を要求しています。

